

ミニデイサービス便り

☺☺ 「ここは年寄り扱いせんのがいい」 ☺☺

初めての利用の方から帰りがけにいただいた言葉。
 「ここはええ。年寄り扱いせんので」聞きようによっては乱暴だったのかと思うけれど、どうやらそうではないらしい。
 この日の朝、突然「民生委員さんに紹介してもらったが行ってもいいですか」という電話をご家族からいただいていた。
 ご本人のこともよく分からず、大丈夫かと心配だったが、すぐに溶け込んで下さった様子。この日は、青少年ボランティア体験学習の生徒が5人、お年寄りと楽器の演奏比べやリズム遊びで賑やかだった。また、午後には大きなハウキで大きな字に挑戦。体で思いっきり大きく書く。半身マヒの方も挑みます。
 スタッフが大きな紙を段ボール紙をささえにして胸に縦に持ち、車椅子に腰掛けたままの利用者さん、墨のついた長いハウキをスタッフ胸元の紙へ直角にぐいぐいと押し付けて書く。
 「荒城の月」と書かれた。見事な体での表現である。
 こんな様子を見て下さったのかも知れない。会にとっては最大級の嬉しい感想の言葉をいただいたと思っている。

8月のミニデイサービス
 研修南保育園 8/3、17 事務所 8/10、19、24、31

暑中お見舞い申し上げます

音楽療法講座「リズムでリハビリ」140名が参加

からだどころに音楽がどうかかわれるか。その歴史から音楽療法の効果や、ガン末期の方や、尊瘡で苦しむ方、孤独に苦しむ方、痴呆の方などへ受容的音楽療法と能動的音楽療法についてお話しを伺いました。

音楽療法事例で、
 まごころミニデイ利用者さんが特別出演
 「私達だって出来ることを知ってほしい」
 「たのしかった！うれしいねー」
 揃いの手縫い自作ドレスで
 奏でて、唄って、踊って、自己表現100%

「荒城の月」をピアノ、木琴、トライアングルによる演奏、つづいて独唱、イ・ムジチ楽団演奏に合わせ孟宗竹、シンバル、大太鼓による大演奏。夏にふさわしく全員手縫いのムームーでアロハオエのピアノ演奏と踊りに会場は一体になってお年寄りに大声援。89歳、88歳、84歳、80歳など総勢11人。様々な年齢と環境と病の中一人一人が全員主役。やっぱり、リズムでリハビリは元気の源

痴呆を考える講演会「人が人を支える」170名の参加者

～～支え合える仕組み作りの必要～～

痴呆について考える講演会では、岐阜県池田町のサンビレッジ新生苑理事長の石原美智子先生にお話しをいただきました。自らが「施設ではつなぎ寝間着を使わない」会の全国会長をつとめられ、質の高い介護を提供していきたいと語られる。

個別対応を徹底させれば漏便も便遊びもおこらない。問題行動をどうするかを考えて受けとめてほしい。みんな少しずつ苦しみを支え合うことを「福祉」ということではないでしょうかと結ばれ、その仕組み作りが痴呆予防の解決策だと話されました。

◆一宮市からの委託講座介護予防痴呆講座開催◆
 期日・七月九日(日)十二日(水) 参加者は定員の倍・四〇名
 ◇講座から学びました◇
 人はどんな病になっても「かかわる人」次第で
 共に社会の一員として今を生きる事が出来る

アルツハイマー病や老年痴呆症など、人間性や記憶を失っていく病む人を、社会に支えられながら、家族の絆を苛酷な中でどう強めていくのか、ドキュメンタリービデオは静かに強く迫ってくる。
 介護者はどうあるべきか。受講生の皆さんに深い思いを残すところとなりました。両日共午後は、まごころ主催音楽療法講座「リズムでリハビリ」痴呆を考える講演会「人が人を支える」と合わせて講座としました。



NO.10 チェック介護保険

事業者の連絡会を

■介護保険開始から四カ月が経過。いろんな疑問や問題が出てきたのではないのでしょうか。介護保険の問題は大きすぎます。よその事業所ではどう解決されているのでしょうか。また、情報についても、中央ではどんな動きがあるのか。地域ではどうなっているのだろうか。どんな事業所があるのか。どんな特性があるのだろうか。どんなサービスがあるのか。考えてみれば利用者さん、提供出来る情報は一般的な事だけ、個別の情報を殆ど持っていないことに気づかされています。またケアプランの問題にしても「何故複合？」「これも家事援助？」「こんな会話がこの事業所でもあり」と思われます。

■今のところ、事業者次第という言葉がびびったりする介護保険。そこまで信頼を受け、まかされていく以上、いろんな問題を率直に語り、利用者に沿うサービスが提供出来るよう事業者は努力しなくてはならない筈。一宮市に事業者連絡会が出来、行政も含めて、研修、交流、情報の場とし、研修を積み重ねたいと思っています。